

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101511		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす二番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208番地		
自己評価作成日	平成29年6月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成29年6月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は桜梅桃里基本理念  
ひと口に「花木」といっても桜・梅・桃など、それぞれ色も形も咲く時期も異なるように、人も、生きてきた道や環境がそれぞれ異なります。老いて物忘れはあっても、それを認め助け合い尊敬する家族のような温かな雰囲気の中で暮らせる生活を、創造していきます。  
和楽の家二番館  
平成29年度の目標  
「良いところを見つけ、出来る事をやっていただく」  
を目標として支援していきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療連携体制が整った中、生活のパートナーであることを念頭に生活支援や介護に取り組み、入居者の良いところを見つけ、出来ることをやっていただく様に入居者本位の支援に努めています。地域密着型サービス事業所として地域との付き合いを大切にし、様々なボランティアの支援や、職員間のチームワークのもとゆったりとした生活を送っている様子が窺えます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念をホームの見やすい場所に 掲示しかつ平成29年度の目標をかかげ意識統一を図っている	理念に基づく目標に向かって、スタッフ意見を取り入れ入居者のそれぞれの良いところを出せるよう、職員間で情報を共有しながら実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に続き、年末に地域の方々に声かけして、多くの方の協力により石臼で餅つきをする事が出来た。	田園地帯にある為、日常的に近所の方と交流することは難しいが、地域行事に対して出来る協力は惜しまずまた、地域の祭事なども地域の一員として参加できるように、地域とのつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に溶け込み回覧板が、常態化している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の方から、グループホームの活動をもっと報告するようにと提案をいただいている。	運営推進会議を通して地域の方々が、野菜や花を持参したり、「ロコミ」で広報活動をしてくれ、事業所に協力してくれます。それによって、地域の方々から意見をもらいサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等に、地域包括支援センター担当の方に参加していただき地域の方々にも情報を発信している	地域密着型事業所として、地域ならではの実情や課題を介護保険課や地域包括の職員と協働できるよう関係づくりに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスにて、勉強会の項目に取り入れ身体拘束をしないケアを実践している。	安全を重視する余り、行動の制限にならない様、またそれが身体拘束に繋がらない様、具体的な勉強会を実施することによって、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の勉強会に出席し、虐待がしらずしらずに行われないように、情報の伝達を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する情報を共有し、現状を理解する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する時に契約内容の説明を十分に説明し、入居後でも分からない事があればいつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時に、運営に関する要望を聞く機会を持ち入居者様の希望に沿った生活が出来るようにしている。	入居者に対する処遇の要望などは、気軽に出せるよう、普段からコミュニケーションと場を大切に、反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に月一回のカンファレンスで業務の見直しスタッフ全員の意見を聞くようにしている。	職員が気軽に管理者に相談できる関係づくりに努め、代表者は管理者からその意見を聞く場を設け、反映させるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の本社とグループホーム事務所では、代表者が常にスタッフに声かけや挨拶を交わしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を休憩室にファイルしたり、見やすい場所に掲示し自己啓発に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を常に持ち、知り得た研修内容を勉強会に取り入れ実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気や努め、些細な事でも謙虚な姿勢で傾聴し問題解決、また理解していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いや気持ち、過去歴や今迄の様子や趣味希望をしっかりと聞きその気持ちを受容し寄り添えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族が何を望まれておられるかどのようなサービスを希望しているかを聞きご希望の目的に沿えるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年齢も経験も異なる方々に、過去培った知識を尊重し学びながら相互の信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が、入居者様と気持ちや関係が離れてしまわない様細々とした日々の変化をお伝えし行事のお知らせ・参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域や人間関係をテレビ・新聞の情報を話し合ったり、地域の方々の参加をお願いしながら馴染みの関係を築ける様努めている。	馴染みの場に行く機会があるときは、同行し関係継続に努め、馴染みの場や人などを理解することで会話に繋げ、それぞれの入居者の馴染みの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人互いを認め、尊重し、いつでも和やかに話しが出来て信頼し合える様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わった後も、その後の様子をお尋ねしたり、相談や支援に応じる姿勢を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人はどうしたいか」という事を考えた支援を心掛け、本人主体となれるような関わりが持てる様努めている。	入居者一人ひとりの思いや意向を把握するためにその人を見ることを忘れず、常に寄り添い個性や尊厳を大切にした支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様・御家族・周囲の方から、性格・生活歴等の情報収集を行える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄・食事・水分量等を記入し、心身の状態を把握し、日々の過ごし方も入居者様の意思を確認しながら、無理強いのないような生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に今、必要なニーズの把握に努めている。	定期的に往診に来る医者や看護師、また日々支援に携っている職員、面接にくる家族などそれぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画の作成に努めている様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に大事な部分については赤字を使い工夫し特記についても細かく記入する様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への通院、地域の人々との交流を図る等柔軟な支援に努めている。又、外出・ドライブ等を毎月一回程度予定し出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントに参加させていただき、ボランティアの方にもきていただき、銭太鼓等をして頂く予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医と看護師・看護師とスタッフが密に連絡を取り合い、御家族・入居者様が納得のいく様に支援している。	内科医、看護師が月2回、精神科医が月1回、口腔ケアは毎週来所するなど、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者様の変化をすぐに看護師に報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、治療が終わり次第できる限り早期の退院が出来る様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後いつ対応が必要か、主治医も含め看護師・スタッフが勉強中である。	看取りは行うものの、看取り経験がないので医師との連携のもと、重度化や終末期に向けた状況に応じた家族対応ができるよう、看護師を含め職員で研修に励んでいる様子が窺えます。	これからも看取りに関する知識を研鑽されると同時に、職員間の精神的フォローもできるように研修されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一の対応の為、AEDを近くに設置していつでも利用できる様に、体験又勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回入居者様との避難訓練を実施している。運営推進会議で、地域住民の方も参加していただき今後のご協力を呼びかけている。	地域のハザードマップを見て、災害を想定しての訓練を一部地域住民と一緒に進めている様子が窺えます。	昨今、地震・水害と多岐にわたる災害が発生していますが、それぞれの災害の初期行動について消防署を交えて振り返られることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に、多くのイベント参加時の声掛け誘導時は、自己決定しやすい言葉掛けをしている。	共同生活の中でその人らしい日常が送れるよう心掛けて、一人ひとりの人格を尊重しながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めています。	これからも馴染みと馴れ合いの境界に留意しながら、カンファレンスを継続し、振り返りを忘れないで支援することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベント食事等で、スタッフの決めた事を押し付けしないで入居者様自身で決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活ペースを大切に、入居者様に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心掛け、季節に合わせた服装が出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ等、その人が出来る事を手伝ってもらっている。	一人ひとりの体調や嚥下能力にあわせた食事内容で食事ができ、下膳など自分のできる入居者は当たり前のように手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量摂取量を記録し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に応じた援助法で、口腔ケアの声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し、排泄パターンを確認しながら誘導や声掛けをしている。さりげない誘導や対応で入居者様個々に沿った排泄支援に努めている。	体調や水分量を把握しながら、個々の自立度を職員が把握し、それぞれの習慣を活かしたトイレでの排泄に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳等の摂取栄養バランスの良い食事水分をしっかり取るなどして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて順番を考え、介助している。一人で入られる方は、外で見守る等安心感を持って頂く様工夫している。	入浴は一對一でゆっくりできる機会ととらえ、羞恥心や恐怖心・負担感の軽減への配慮が窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し、夜間良眠出来る様生活リズムを整える支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成をし、いつでも内容が確認出来る様にしている。服薬時には、二人目で確認、読み上げ後服薬が確実に出来ているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活能力に応じ、食事作りの手伝い・食事後の片付け・洗濯干し・洗濯たたみ生き甲斐作りを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数を考慮し、入居者様のご希望に出来る限り沿える様に支援し、御家族の協力を頂きながら外出出来る様にしている。	日常的には、体調や天候・季節を考慮しながら花の水やりや洗濯物干し、ゴミ捨てを手伝ってもらったり、近所にあるドッグランの犬を見に行ったりして、外気に触れるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてご自分で管理していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に出来る限り添える様に、電話や手紙を出していただくよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険を防止する為に、移動する空間を出来るだけ確保している。又、設置する物は必要最小限としている。	安全かつできるだけ自立した暮らしを送れるように工夫され、居間、食堂には季節の花が飾られ、入居者がつくった季節の貼り絵など、季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置に気を配り、思い出の写真を飾ったり季節感を感じていただく為に花を飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の好みを尊重し、移動の時の安全に注意を払い居心地の良い居室作りに努力している。	使い慣れたものや好みのもをを活かして、家族と本人が相談の上、居室作りをしている様子が、各部屋から窺うことができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	残存機能を最大限生かせる補助用具を活用したり、きめ細かい見守りで生活環境に応じた支援をしている。		